

平成 2 6 事業年度

決 算 報 告 書

自 平成 26 年 4 月 1 日

至 平成 27 年 3 月 31 日

国立大学法人千葉大学

平成26年度 決算報告書

国立大学法人 千葉大学

(単位:百万円)

区 分	予算額	決算額	差 額 (決算-予算)	備 考
収入				
運営費交付金	17,470	18,668	1,198	(注1)
うち補正予算による追加	239	239	-	
施設整備費補助金	3,336	3,385	48	(注2)
うち補正予算による追加	171	-	△ 171	
船舶建造費補助金	-	-	-	
補助金等収入	2,642	4,310	1,668	(注3)
うち補正予算による追加	187	-	△ 187	
国立大学財務・経営センター施設費交付金	81	81	-	
自己収入	38,046	38,520	473	
授業料、入学料及び検定料収入	8,115	8,089	△ 26	(注4)
附属病院収入	29,415	29,596	181	(注5)
財産処分収入	-	193	193	(注6)
雑収入	516	641	124	(注7)
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	4,569	5,274	705	(注8)
引当金取崩	195	213	18	(注9)
長期借入金収入	2,997	3,262	264	(注10)
貸付回収金	-	-	-	
目的積立金取崩	796	1,279	482	(注11)
計	70,135	74,995	4,859	
支出				
業務費	54,954	57,603	2,648	(注12)
教育研究経費	23,423	25,136	1,713	
うち「学長のリーダーシップの発揮」を更に高めるための特別措置枠対象事業	147	147	-	
うち年俸制導入促進費対象事業	41	35	△ 6	
診療経費	31,531	32,466	935	
施設整備費	6,415	6,729	313	(注13)
うち耐震対策事業	171	-	△ 171	
船舶建造費	-	-	-	
補助金等	2,642	4,310	1,668	(注14)
うち[経済対策]対象予定事業	187	-	△ 187	
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	4,569	5,258	689	(注15)
貸付金	-	-	-	
長期借入金償還金	1,554	1,495	△ 59	(注16)
国立大学財務・経営センター施設費納付金	-	92	92	(注17)
計	70,135	75,488	5,352	
収入 - 支出	-	△ 492	△ 492	

○予算と決算の差異について

- (注1) 運営費交付金については、決算額に本年度使用した前年度以前の繰越額を含んでいるため、予算額に比して決算額が1,198百万円多額となっております。
- (注2) 施設整備費補助金については、主として予算段階では予定していなかった補助金の増加及び事業の一部を平成27年度に繰越したため、合算して予算額に比して決算額が48百万円多額となっております。
- (注3) 補助金等収入については、予算段階では予定していなかった補助金の増加及び事業の一部を平成27年度に繰越したため、合算して予算額に比して決算額が1,668百万円多額となっております。
- (注4) 授業料、入学料及び検定料収入については、主として在籍者数及び志願者数が見込者数を下回ったため、予算額に比して決算額が26百万円少額となっております。
- (注5) 附属病院収入については、主として平均在院日数の短縮等に伴う入院診療単価の向上及び高い病床稼働率の維持により、予算額に比して決算額が181百万円多額となっております。
- (注6) 財産処分収入については、松戸隧道に係る土地を売却したため、予算額に比して決算額が193百万円多額となっております。
- (注7) 雑収入については、主として区分地上権設定に係る収入(松戸地区)、弁償及び違約金、受取保険料及びTLO事業収入等の増加により、予算額に比して決算額が124百万円多額となっております。
- (注8) 産学連携等研究収入及び寄附金収入等については、主として受託研究・共同研究・科学研究費補助金の間接経費収入の増加及び奨学寄附金の減少のため、合算して予算額に比して決算額が705百万円多額となっております。
- (注9) 引当金取崩については、予算段階では予定していなかった退職給付引当金及び賞与引当金の取崩を行ったため、予算額に比して決算額が18百万円多額となっております。
- (注10) 長期借入金収入については、予算段階では予定していなかった借入金の増加のため、予算額に比して決算額が264百万円多額となっております。
- (注11) 目的積立金取崩については、予算段階では予定していなかった取崩の増加及び事業の一部を平成27年度に繰越したため、合算して予算額に比して決算額が482百万円多額となっております。
- (注12) 業務費については、主として(注1)及び(注11)に示した理由、退職手当の増加、事業の一部を平成27年度に繰越したこと、(注5)に示した理由による附属病院収入の増収に伴う支出額の増及び病院再開発関連経費の増等により、合算して予算額に比して決算額が2,648百万円多額となっております。
- (注13) 主として(注2)及び(注10)に示した理由により、予算額に比して決算額が313百万円多額となっております。
- (注14) 主として(注3)に示した理由により、予算額に比して決算額が1,668百万円多額となっております。
- (注15) 主として(注8)に示した理由により、予算額に比して決算額が689百万円多額となっております。
- (注16) 長期借入金償還金については、主として借入金額の変更に伴う支払利息の減少により、予算額に比して決算額が59百万円少額となっております。
- (注17) (注6)の財産処分収入の一部を施設費納付金として国立大学財務・経営センターへ納付したため、予算額に比して決算額が92百万円多額となっております。